

下値に押し目買いが入り始めた米国株



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 下値に押し目買いが入り始めた米国株

波乱の展開が続いてきた米国株ですが、足元で日中の値動きに下値抵抗力が始まるなど、変化の兆しが出てきました。

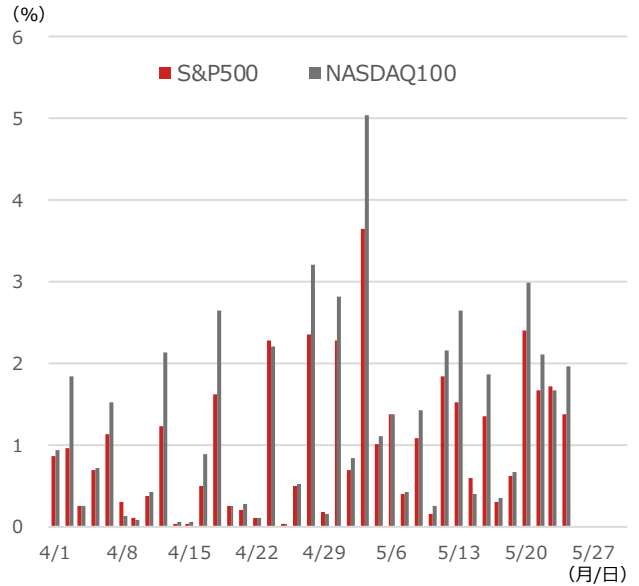
S&P500種株価指数とハイテク株主体で構成されるNASDAQ100の日中安値から終値までの戻り率は、5月25日まで4営業日連続で1%以上となっており、4月には一度も見られなかった現象が起き始めています（右上図）。同戻り率の平均値をみると、4月はS&P500種株価指数で0.66%、NASDAQ100は0.88%でしたが、5月は前者が1.33%、後者が1.67%と4月と比べ2倍前後の戻り率となっています。これは下値での押し目買い需要が増加していることを示唆しているともいえ、これまでの下落一辺倒の相場環境が転換しつつあるタイミングに入ってきたと考えられます。

ポイント② 市場心理は改善に向かう公算も

市場の変動率を示すボラティリティ・インデックス（別名：恐怖指数）は足元では落ち着きを取り戻しつつありますが、現時点でまだ高水準であることから、投資家心理が完全に好転したとまではいえません（右下図）。

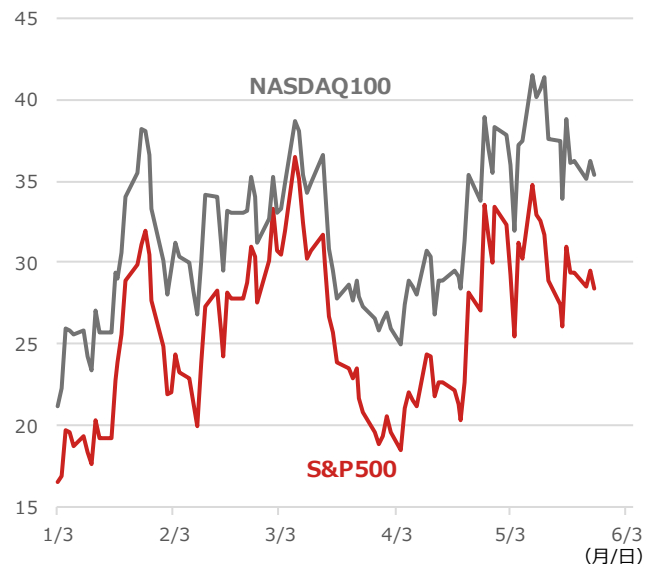
しかし、ここにきてFRB（米連邦準備制度理事会）高官から、景気をふかしも冷やしもしない中立金利以上に利上げを行なった後は、利上げを一旦打ち止めし、インフレや景気動向を見守るとの発言も目立っており、過度な金融引き締め懸念が和らぎつつあります。また、中国の上海市が都市封鎖解除に向けた道筋を示すなど、夏場以降の中国景気の持ち直しに対する期待も一部で高まっています。潮目の変化に備え、米国株への押し目買いを入れるのも一手ではないでしょうか。

S&P500とNASDAQ100の日中安値からの戻り率



期間：2022年4月1日～2022年5月25日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500とNASDAQ100のボラティリティ・インデックス



期間：2022年1月3日～2022年5月25日、日次
・ボラティリティ・インデックスとは米シカゴ・オプション取引所が、S&P500種株価指数やNASDAQ100を対象とするオプション取引の変動率を元に算出、公表している指数。一般的に同指数の数値が高いほど、投資家の先行き不透明感が強いとされる。
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。